



岩手県県北家畜保健衛生所
岩手県北家畜衛生協議会

目次

巻頭言	1
早めの暑熱対策で、生産性を維持・確保しましょう！	2
牛白血病の清浄化に取り組みませんか？	4
新採用職員紹介	5
新体制紹介	5

巻頭言

岩手県県北家畜保健衛生所長
木戸口 勝彰



昨シーズン、高病原性鳥インフルエンザは、日本とその周辺国に加え、欧州、北米での流行が認められました。特に、冬の渡り鳥シーズンの初めに韓国で発生した年は、日本への侵入が確認され、野鳥のサーベイランスと家さんへの侵入防止対策の強化を関係者に注意喚起しています。

一方、口蹄疫は、発生が続く東アジア地域から侵入する可能性を常に意識する必要があり、水際防疫の強化を継続しています。

昨年、豚流行性下痢（PED）の発生は、全国で45万頭以上の死亡豚が確認され、本県でも9,000頭以上の被害があり、現在も気が抜けない状況が続いています。

当所の使命は、本県の本格復興、農林水産業の振興のため家畜疾病対策による畜産経営の安定と生産振興です。

重要家畜伝染病の防疫対策の維持・強化の取組は、発生予防、早期通報、迅速な初動対応が基本であり、被害を最小限に抑えます。そのための準備と対応です。

飼養衛生管理基準の遵守は、農場個々の家畜衛生水準の維持・向上による疾病の侵入防止を、さらに周辺へまん延防止を図るための手法です。万が一のときは早期通報を促しています。

畜産は、県北局管内の農業粗生産額の7割以上を占め、関連業種を含め地域経済への影響は大きく、重要な産業に位置付けられます。全国3位の出荷羽数を誇る肉用鶏の6割が集中し、大規模化やグループ化が進む養豚経営体、県内有数の大規模酪農経営体、そして、戸数の大半を占める肉用牛経営体、短角牛の繁殖・肥育経営体が存在します。この地域の気候風土に適合し、努力と工夫で発展した地場産業です。

ディフェンスを固め発生予防に努め、関係者が一体となって高い防疫レベルを維持し、生産阻害要因の解消による生産性向上対策を支援していきます。現在は、生産意欲が沸く市場価格、枝肉価格動向であり、生乳需要の活発な時期です。

「目指します！家畜の健康と安定した畜産経営」をキャッチフレーズに取組みます。

早めの暑熱対策で、生産性を維持・確保しましょう！

暑熱環境下になると、家畜（牛・豚・鶏）は熱生産量を抑えるため、飼料摂取量の減少や行動の不活発化等といった反応を示しますが、臨界温度を超えてさらに気温が上昇すると、熱生産量を調整できずに体温が上昇し、生産性や繁殖成績の低下、熱射病の症状を呈したり、最悪の場合は死に至ります。

鶏の暑熱事故では、当所管内でも昨年度（平成26年度）7市町村37件30,700羽の暑熱事故（熱死）が発生しました。（二戸市の平成26年5～7月の日平均最高気温は25.2℃、最高気温は33.4℃）

今年の気象庁3ヶ月予報（5～7月）では、東北地域も40%の確率で例年より気温が高くなる模様です。夏期における暑熱対策に早めに取り組みましょう。

（1）畜舎内温度の上昇防止

①屋根への散水

畜舎の屋根にスプリンクラーや小さな穴を開けた灌水チューブを設置して、屋根全体に散水を行い、屋根裏の温度を低下させ、太陽光の輻射熱を低下させます。



図：スプリンクラーによる散水



図：ホースによる散水(全農提供)

②植物カーテンや遮光ネットの設置

畜舎の屋根からの輻射の他に、日射光が直接畜舎内に入らないように遮光することが効果的です。遮光で最も一般的なのは「寒冷紗」と呼ばれる遮光ネットを使用する方法で、畜舎の南側、西側に設置することで日光の侵入を防ぎ、舎内温度上昇を抑えます。「ひさし」「よしず」を利用することもできます。

ただし、これらの遮光材は、日光の侵入と同時に自然の風も遮るため、換気の効率が悪くなります。そのため設置の場所や角度を検討するとともに、送風装置の併用についても検討します。



図：植物カーテン(社)中央畜産会提供



図：寒冷紗による遮光

次頁に続く

(2) 飼養環境の改善による熱放散の促進

①ファンやダクト送風機による送風

畜舎の温度を下げるには、通風換気を良くすることが一番です。窓や壁等を極力取り払い、舎外から新鮮な空気を取り入れて、舎内の湿った空気を効率的に排出することが大切です。

ファンやダクト送風機による送風には、畜舎内の換気を良くして温度を下げるとともに、家畜体表面から熱を奪うことで、熱負荷を軽減する2つの効果が期待されます。



図：ファンによる送風



図：ダクト送風機



図：ファンによる送風

②細霧装置による冷却

細霧装置は、細霧（ミスト）を風で気化させ、その気化熱により気温を下げる方法です。

ミストを気化するためには十分な風量が必要で、通常、園芸用スプリンクラーによる散水装置を大型ファンを併用します。ミストによって、気温は下がりますが、湿度は上昇します。昼間の高温時など気温が高く湿度が低いときには効果がありますが、湿度が高い日や夜間は調節が必要になります。

(3) ストレス低減技術

①飼育密度の低減

家畜そのものや糞便が熱源となることから、夏期は飼養密度を低くし、除糞はこまめに行います。運動場等がある場合は、夜間に半数の牛を畜舎外に出して、その間に畜舎内を十分に冷やします。クーリングパッドによる入気冷却なども効果的です。

②低温で十分な飲水の確保

ウォーターカップや給水管などを確認し、低温で十分な飲水を確保します。



図：ウォーターカップ



図：給水管



図：給水槽

(4) 飼養内容や給与方法の変更

早朝や夜間等、涼しい時間帯を選んで給餌する。家畜の移動や出荷は涼しい時間に行います。

特に、畜舎内の送風では、家畜の体に直接吹き付けるだけでなく、一定方向への空気の流れを作ってあげることも大事とされています。

また、涼しい時間帯を選んでほしい作業には、給餌だけでなく家畜の移動や出荷があり、暑い時間帯を避けることで生産性の低下を抑制する効果が期待されます。

<中小家畜>

牛白血病の清浄化対策に取り組みませんか？

1. 牛白血病の症状について

- 牛白血病は、血液中の白血球が異常増殖する病気です。
- 牛白血病は、多くの場合、牛白血病ウイルスの感染によって引き起こされます。
- 主な症状は、体表リンパ節の腫大、骨盤腔内の腫瘍の蝕知など、多くの例で腫瘍塊が確認されます。
- また、元気消失、食欲不振、削瘦、眼球の突出などの症状がみられることもあります。
- 牛白血病の治療法はありません。



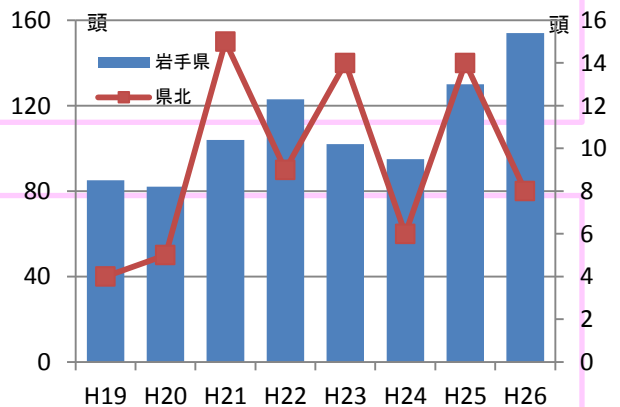
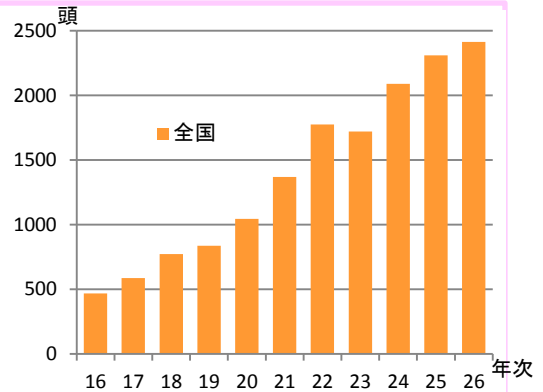
2. 牛白血病の発生症状について

牛白血病はこの10年間で、発生頭数が約5倍に増加しています。
直近の発生頭数は以下のとおりです。

平成26年度	：全 国	2,415頭
	：岩手県	154頭
	：県 北	8頭

本ウイルスは、血液を介して感染しますので、まん延防止には、

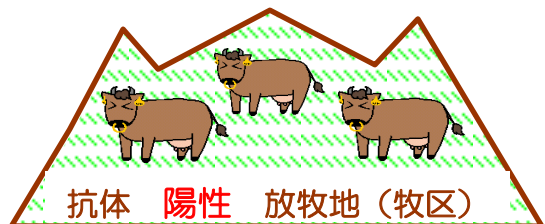
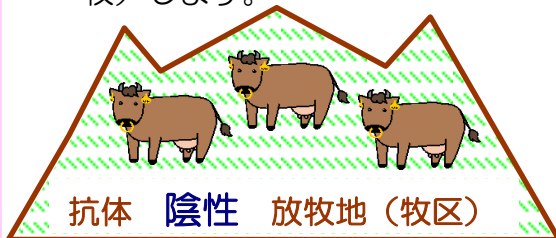
- ① アブによる伝播防止対策
- ② 器具等に付着した血液を介した人為的な感染防止対策が重要です。



3. 伝播防止対策

(1) アブによる伝播防止対策
(分離飼養)

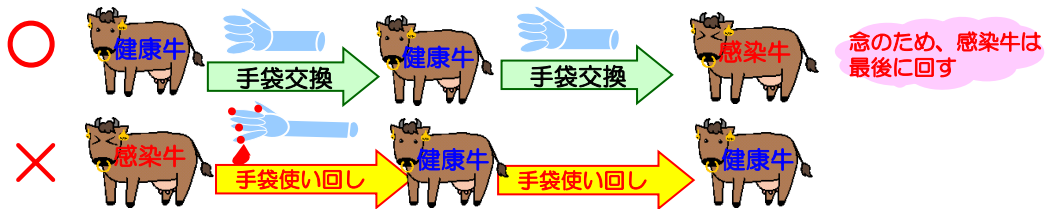
放牧場では、アブが発生する夏季間(6~9月)に抗体陽性牛と陰性牛を分離して飼養(放牧)します。



次頁に続く

(2) 人為的な感染防止対策

- ・直腸検査手袋の連続使用は厳に慎み、1頭ごとに取り替える。



- ・パンチャー、除角、削蹄、去勢器具等、血液が付着する可能性のある器具は、1頭毎に水洗、消毒を実施する。

なお、当管内では、二戸市、軽米町、九戸村の市町村営放牧地を中心に本ウイルスのまん延防止対策を開始しており、本年度からは久慈地域でも対策が始まっている牧野があります。
〈大家畜〉

新採用職員紹介



岩手県北家畜保健衛生所
大家畜担当

たかはし まよ
高橋 万世

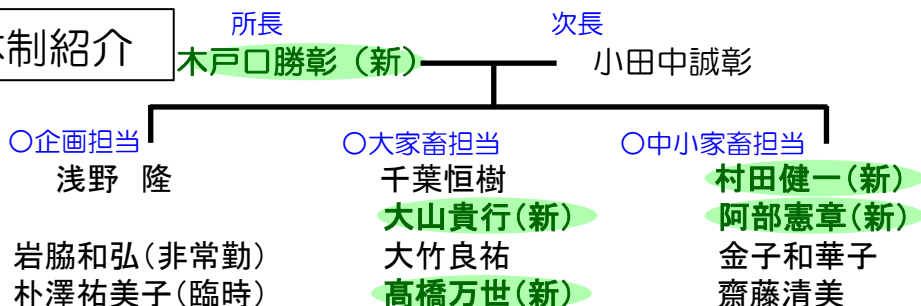


こんにちは。今年の4月から岩手県職員として採用され、岩手県北家畜保健衛生所で大家畜担当になりました、高橋万世（たかはし まよ）です。

出身地は埼玉県ですが、北海道（酪農学園大学）で大学時代を過ごしました。岩手県は祖父母の家があること、家畜が多く自然豊かな県であることなどから就職先に選びました。岩手の方言や地理、文化など知らないことが多いので、これからいろんなことに接して、岩手のことを知っていこうと思います。旅行が好きなので、時期によって変わる美味しいものや草花、温泉や景色を楽しもうと現在計画中です。

仕事では分からないことも多く、これからご迷惑をお掛けしてしまうかもしれません、多くのことを一生懸命吸収しようと思いますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

新体制紹介



《発行元・問い合わせ先》

岩手県北家畜保健衛生所

電話：0195(49)3006

岩手県北家畜衛生協議会

FAX：0195(49)3008

電話：0195(49)3040